

大会競技特別規則及び解説

仙台市中体連野球専門部

1 競技規則

2016年日本野球規則、及び県中体連野球部会の申し合わせ事項による。

2 競技方法ならびに注意事項

i) 競技に関する事項

(1) トーナメント方式7イニング制とする。

(2) 5回以降7点以上差がついた時は、コールドゲームを宣言する。

【解説】決勝戦もコールドゲームを宣言する。

(3) 正式試合は、通常7イニングから成る。

(4) 暗黒・降雨などで試合が途中で中止になった場合、原則として再試合にしないで、翌日の第1試合に先立って特別継続試合を行う。また、試合の中断及び日程の変更は大会本部で決定する。

(5) 延長戦は春季大会、新人戦は行わない。中総体は9回まで行う。**中総体は10回、春季大会、新人戦は8回**より次のような特別延長戦を行う。

＜特別延長戦＞

継続打順で前回の最終打者を1塁走者とし、2塁、3塁の走者は順次前打者とする。すなわち、無死満塁の状態にして1イニング行い、得点の多い方を勝ちとする。勝敗が決しない場合は、さらに継続打順で得点差が生じるまでこれを繰り返す。なお、通常の延長戦と同様、規則によって認められる選手の交代は許される。

(6) 攻守交代は全力疾走で行い、先頭打者とランナーコーチはミーティングに参加せず、直ちに所定の位置に着くこと。

(7) 攻守交代の時、投手またはプレートに最も近い野手が球を投手板近くに置くこと。

(8) 試合中の球場内では、次打者以外は素振りなどをしてはいけない。その際、投手の投球が始まったら、次打者席で低い姿勢で待つこと。

(9) 投手の準備投球は、初回と投手交代の時は7球以内とするが、2回以降は4球または3球とする。また、捕手、予備捕手は安全のためマスクをかぶる。

【解説】

* 準備投球数は審判が状況を考慮して判断する。

(10) スパイクに白線の入っているものは認めない。ゴムポイントのスパイクの使用は認める。(ただしシェルコムせんだいではこの規定は適用しない)

(11) 金属バットについては、J S B Bのマークの入った公認されたものとする。

【解説】

* 金属バットについては、複合型バットも認める。日本中体連野球専門部の用具装具規定を参考とする。

(12) ユニフォームは同一系統色とし、派手なものは避ける。

【解説】

* 上着とズボンのツートンは認めるが、上着の前面と背面のツートンやカッティングなど、華美なものにならないようにする。
* ハイカットのストッキングは禁止する。

(13) 捕手のレガース・ヘルメット・プロテクターはつけるものとする。

* 控え捕手も同様の装備とする。

(14) 打者・走者・次打者のヘルメットはつけるものとする。(ヘルメットは両耳とする)

【解説】

* (12)と関連して、色はユニフォームの色とマッチさせるようにし「良識的判断で」派手なものをさけるようにする。

* ランナー・ランナーコーチ、ボールボーイ、シートノック補助員もけが防止のためにヘルメットを着用すること。
(ネクストバッタラーは投球時はしゃがむ。バットを振っている所を通過する場合、十分注意する。)

(15) 投手の2段モーションについては全て不正投球とみなす。

(16) メガホンのベンチ持ち込みは1個とし、監督のみ使用を認める。

(17) 選手交代の申し出は監督が行う。コーチは試合前のノックを行うとき以外はベンチからでないものとする。

(18) 試合終了後のあいさつですべて完了とし、次の試合のためにすみやかにベンチをあける。

【解説】

* ホームプレートを含んでのあいさつ後、相手ベンチ前へ行ってのあいさつはしない。

* 試合開始、終了時のあいさつの際は、部長・コーチもベンチ前で同時にあいさつする。

(19) 試合進行上、無用なタイムは慎み、サインは打者席から見るなどスピーディーな試合進行を心がける。

【解説】

* ボール回しは試合の進行上禁止することがある。

(20) 本塁打を打った打者に握手を求めるためにグラウンドに出てはいけない。

(21) 『危険防止のための徹底事項』

① 用具は必ず規定のものを使用し、バットリング・鉄棒等の球場への持ち込みを禁止する。

【解説】

* マスコットバットの使用は認める。(次打者席には持って行かない)

② 足を上げてのスライディングは禁止し、現実には妨害となった場合は走者をアウトにする。

③ 捕手のレガース・ヘルメット・プロテクター・スロートガードと、打者と走者の両耳付きヘルメットは必ず着用すること。

【解説】

* 投球練習時の控え捕手の防具も着用することを推進する。

④ 競技規則 7.06 (a) 【付記】(捕手のブロック)の適用について、中学校野球では「ボールを保持しているときしか塁線上に位置することはできない」こととする。

【解説】

ア. 走塁妨害を適用するのは、あくまでも捕手のその行為がなければ当然本塁に到達できたと判断できる場合である。

イ. 捕手のその行為が走塁妨害にもかかわらず、瞬間的に「アウト」のコールをした場合でも、改めて「オブストラクション」の宣告をし直す。

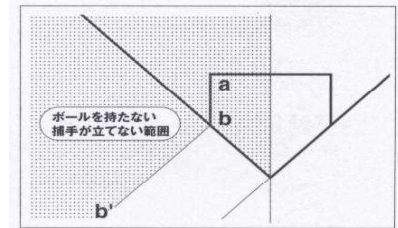
ウ. 走塁妨害適用外であってもそのような行為があった場合は、試合を停止したうえ、捕手に対して厳重注意すること。

エ. ボールを保持する前の立つ位置は次の通りとする。

① ホームベースの中央線より右側に立ち、ベースの左半分が走者に見えるようにすること。

② 捕手がホームベースより後方に位置するときでもホームベースと三・本間のラインが重なる3塁よりの接点(右図b-b')から前方に出てはいけない。

オ. 捕球後ボールを保持しているときは塁線上に移動しタッグをしてもよい。



(22) 規則 3.03 原注[前段]「投手は同一イニングで投手以外の守備についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることもできないし、投手にもどってから投手以外の守備位置に移ることもできない」については適用しない。

【解説】

* 中学校野球では登録人員の関連で本規則を適用しないとしたものである。作戦上の目的等、本来の趣旨からはなれて利用されることのないように留意されなければならない。

(23) 『監督が投手のところへ行く回数の制限』(8.06 関連)

① 試合中に監督がとることのできるタイムの回数は、1イニングに1回とする。

② 監督が、同一イニングに同一投手のところへ二度目に行くか、行ったと見なされた場合(伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところへ行かせた場合)は、投手は自動的に交代しなければならない。”中学校野球”では、交代した投手が、他の守備位置につくことが許される。

③ 捕手を含む内野手2人以上が、一試合に投手のところへ行ける回数を、7イニングスの試合にあっては3度以内とする。ただし監督と共に行った場合は除く。なお、延長戦(特別延長戦も含む)になった場合は、2イニングスに一度行くことができる。

※延長戦に突入した場合、7回までにとったタイムの回数が1度以下の場合は、残りのタイム数を延長戦で使うことができる。

④ 監督が、相手チームのタイム中、投手のところへ行くことは差し支えないが、プレイの再開を遅らせた場合は、投手のところへ一度行ったこととする。

⑤ 監督が投手のところへ一度行くか行ったと見なされた場合は、球審は、あと一度行けば投手を交代させなければならない旨を知らせる。なお、一度目に知らせなかった場合は、二度目に行こうとしたとき、球審はその旨を知らせなければならない。

ただし、球審が知らせなくても、監督が、同一イニングに同一投手のところへ二度に行くか、行ったと見なされた場合は、投手は自動的に交代することになる。

(24) 主将及び当事者、監督以外の者の抗議は厳禁する。

(その他の者が抗議した場合は、試合没収とする)

【解説】

* 審判員は、その抗議者について確認すること。

(25) 塁上の走者、およびコーチスボックスやベンチから、球種などを打者に知らせるための行為を禁止する。

(26)故意に試合の進行を妨げるような行為は絶対しないこと。

【解説】

* 頭髪を撫でつけることの繰り返しは、遅延行為とみなすこともある。

ii) 運営に関する事項

(1)出場校は、定刻1時間前に集合し、本部に通告すること。

(2)第1試合のメンバー用紙交換及び攻守決定は試合開始予定時刻の40分前とする。第2試合以降は前試合の4回終了時とする。各チームの監督と主将はメンバー表を5通持参し、本部役員と担当審判員とで打ち合わせをする。

【解説】

*メンバー表は5通提出(アナウンス、対戦チーム、審判、本部、自チームの計5通)する。ただし、各区大会でアナウンスがない場合は4通とする。

*オーダー交換時は、監督・主将ともにユニフォームを着用すること。

*コールにより、主将が持参し、先攻と後攻を決める。コールがない場合は4回の裏終了時点で本部席に打順表を持参する。

*次の試合の選手がブルペンを使用するのは、オーダー交換後とする。ただし、試合を行っているチームを優先とし、監督の了承を得ること。

(3)ベンチは抽選番号の若い方を1塁側とする。

(4)試合前のフィールディングは原則として7分以内とする。但し、天候や試合数に応じて行わないこともある。

【解説】

*短縮されたり、省略される場合もある。

*ノッカーは選手と同一のユニフォームを着用する。スパイクは黒色のものとする。

*試合前の練習及びノックには登録選手以外に補助員をつけることができる(各区大会は各会場で申し合わせをし確認する。全市大会は5名までとする)

*ピッチャーマウンドは使用しない。

*相手校がシートノックをしているときは、ベンチ前で素振り等はしない。

*ボールが動いた時点からスタートする。

(5)プレーヤーズ・ベンチには、登録された者の他は、着席を認めない。なお、監督は背番号30を着用する。着用している場合はダイヤモンド内に入ることができる。コーチの服装はユニフォームまたは正装とする。

【解説】

*指導者(監督・コーチ)のユニフォームも揃える。外部コーチの服装もそれに準ずる。

ただし、コーチの服装が正装の場合はその限りではない。(選手と同様の物。ストッキング・帽子・スパイクもきちんと着用すること。)

*サングラスは着用しない。

*合同チームは自チームのユニフォームを着用する。

(6)登録選手は、ポジション順に背番号をつけること。

(7)1, 3塁コーチは、ユニフォーム着用の選手に限る。

(8)各チームの部長か監督は、球場を去る前に本部に連絡し、次の試合日程の確認を行うこと。

(9)不祥事件をひきおこせるチームは、紛争処理委員会の裁定に基づいて年間の大会出場を停止する場合もある。

(注・紛争処理委員会は、会長、理事長、部会長、正副委員長、正副審判長で構成する)

(10)ベンチ以外からの指示及びコーチングは一切認めない。

(11)選手のテーピングは肌色に近い色のものを用い、投手は投球に影響を与えるものは使用できない。

(12)選手の頭髪、身なり等は中学生らしく、試合中はもちろんのこと試合の前後においてもスポーツマンらしくマナーには十分留意すること。

【解説】

*頭髪は試合(競技)に邪魔にならないようにし、染髪、脱色、剃り込みやその他、中学生としてふさわしくないことをしない。

*ハイカットのストッキング、リストバンドは禁止し、装飾品は一切表には出さない。

*相手を威嚇するような声がけをしない。声がけはベンチ直前で行う。

(13)天候等による大会の実施の可否、試合の中断及び日程の変更は、別紙「雨天時の連絡方法」を参考にする。

(14) ボールボーイは必ずヘルメットの着用をすること。(各チームではなく、各会場でボールボーイ用のヘルメットを準備すること)

(15) 応援団は次の禁止事項を守ること。なお、これについては各チームの部長・監督が責任を持って指導すること。

①紙吹雪・テープ・個人名を書いたのぼり等を禁止する。

②相手チームをやじったり、相手チームに不利を招くような応援をしない。「○○倒せ～」とは言わない。

③応援席周辺を散らかさない。ゴミは持ち帰る。

3 大会参加について

別紙参照

【解説】

* 監督は当該校校長・教員，コーチは当該校教職員または学校長が承認した外部コーチとする。

* 女子選手の出場も認められる。

* 他連盟登録の選手の出場は認めない。(二重登録の防止)

* 外部コーチを登録する際は，外部コーチ承認届けを登録と同時に提出する。また，学生及び他連盟所属（プロ・高野連・大学野球連盟・リトル・シニアリーグ等）のコーチ登録は認めない。

* 東北・全国大会はスコアラー登録はない。(スコアラーは18名を含む)

* スコアラーは，学校指定の奨励服・標準服を着用すること

(3) 申込書に記載する個人情報については，各学校で選手に同意を確認し，同意が得られない場合は，早急に市委員長及び中体連事務局に申し出る。

4 使用球

・健康ボールB号

《春季大会・新人戦》

・各区大会は，1回戦は試合校が1試合につき2～3個準備する。(準決勝・決勝は専門部で準備)

・全市大会については，専門部で準備する。

5 参加費

《春季大会》

5,000 円

《新人戦》

3,000 円

6 表彰

別紙参照

7 審判について

別紙参照

8 その他

・野球部員、選手として生活面においてもアマチュアスポーツマンとしての誇りを持たせ、恥ずかしくない態度をとらせる。

・上記に関し、特に頭髪については、染色・パーマ等の選手の出場は認めがたい。事前の指導者の徹底した指導を望む。

・選手の長髪に関しては、試合の遅延にも関係するものとする。指導者の積極的な指導を望む。(短髪のすすめ)